

8.3 まとめ

自然環境評価書は、西部丘陵地域の自然環境を評価し、自然環境保全を図るための基礎資料として発行しました。

西部丘陵地域の自然の特色は、人と自然とのかかわりが継続して成り立った里山の自然であることです。評価にあたっては、自然の現況に加えて、それを守ってきた人とのかかわりやその証がどの程度残されているのかをみることにより、総合的に「里山らしさ」がよく残されている場所を把握できるようにしました。

評価の結果、座禅川上流（Ⅰ）、鷹取山山麓（Ⅱ）、神奈川大学周辺（Ⅲ）が、「総合評価」でA評価となりました。祖先から受け継がれた豊かな自然環境が維持されている地区といえるでしょう。今後、この環境を保全、維持する手だてを考えていく必要があります。中でも典型的な人里の雑木林や谷戸、集落がみられる座禅川上流（Ⅰ）は、「自然評価」と「人とのかかわり評価」がともにA評価で、もっともバランスがとれています。奥山を思わせる環境からなり、集落が少ない鷹取山山麓（Ⅱ）は、「自然評価」がA評価と高く、「人とのかかわり評価」がB評価となっています。樹林、農地、集落が混在しており、人と自然との接点が多い神奈川大学周辺（Ⅲ）では、「自然評価」はB評価で、「人とのかかわり評価」がA評価と高くなっています。

なお、本評価は、西部丘陵地域内での相対評価であり、評価の低い地域であっても、市内のほかの地域と比較すれば、はるかに豊かな「里山らしさ」が残されていることはいうまでもありません。

Ⅳ. 金目川段丘

	自然	場	緑の質	生物
総合	★★★	●●●	●●●	●●●
★★★	人とのかかわり	景観	人とのふれあい	人文
★★★	★★★	●●●	●●●	●●●

Ⅶ. 遠藤原台地

	自然	場	緑の質	生物
総合	★★★	●●●	●●●	●●●
★★★	人とのかかわり	景観	人とのふれあい	人文
★★★	★★★	●●●	●●●	●●●

Ⅰ. 座禅川上流

	自然	場	緑の質	生物
総合	★★★★	●●●	●●●	●●●
★★★★	人とのかかわり	景観	人とのふれあい	人文
★★★★	★★★★	●●●	●●●	●●●

Ⅷ. ゴルフ場

	自然	場	緑の質	生物
総合	★★★	●	●●●	●●●
★★★	人とのかかわり	景観	人とのふれあい	人文
★★★	★★★	●●●	●●●	●●●



Ⅲ. 神奈川大学周辺

	自然	場	緑の質	生物
総合	★★★	●●●	●●●	●●●
★★★★	人とのかかわり	景観	人とのふれあい	人文
★★★★	★★★	●●●	●●●	●●●

総合評価	
☆☆☆	A 大変良好な自然環境が存在し、自然と人とのかかわりが密接である
☆☆	B・C 良好な自然環境が存在し、自然と人とのかかわりがある
★	D・E 良好な自然環境や、自然と人とのかかわりに乏しい

V. 金目川低地

	自然	場	緑の質	生物
総合	☆☆	●●	●●	●●
☆☆	人とのかかわり	景観	人とのふれあい	人文
	☆☆	●●	●●	●●

VI. 不動川中流

	自然	場	緑の質	生物
総合	☆☆	●	●●	●●
☆☆	人とのかかわり	景観	人とのふれあい	人文
	☆☆	●●	●●	●●



II. 鷹取山山麓

	自然	場	緑の質	生物
総合	☆☆☆	●●●	●●●	●●●
☆☆☆	人とのかかわり	景観	人とのふれあい	人文
	☆☆	●●●	●●	●●

自然の評価	
☆☆☆	A 大変良好な自然環境が存在する
☆☆	B・C 良好な自然環境が存在する
★	D・E 自然環境にやや乏しい

場の評価	
●●●	A 地域の骨格になる地形や中核となる緑がある
●●	B・C 比較的まとまりのある緑がある
●	D・E 緑地は存在するが少ない

緑の質の評価	
●●●	A 自然度の高い植生や水系が存在する
●●	B・C 自然度は高くないが存在する
●	D・E 質の高い植生や水系に乏しい

生物の評価	
●●●	A 豊かな自然環境を指標する
●●	B・C 比較的豊かな自然環境を指標する
●	D・E 自然度の高い環境に生息する種が少ない

人とのかかわり評価	
☆☆☆	A 自然と人との関係が密接にかかわり、かつ良好な関係にある
☆☆	B・C 自然と人との関係が密接である
★	D・E 自然と人との関係がやや希薄である

景観の評価	
●●●	A 里山景観要素が大半を占める
●●	B・C 里山景観要素が多い
●	D・E 里山景観要素に乏しい

人とのふれあいの評価	
●●●	A 人とのふれあい場所が多く存在する
●●	B・C 人とのふれあい場所がある
●	D・E 人とのふれあい場所に乏しい

人文の評価	
●●●	A 歴史的史物や史跡などが多く存在する
●●	B・C 歴史的史物や史跡が存在する
●	D・E 歴史的史物や史跡が乏しい